

二宮小学校だより



にのみや学園
二宮町立二宮小学校学校だより
令和5年度第6号(12/20 発行)

令和5年も残すところ10日あまり。子どもたちは、今月の目標「2学期のまとめをしよう」のもと、今学期の生活や学習をふり返り、どのような姿で終業式を迎えるのかを考えています。

先月は、インフルエンザ感染拡大防止のため、複数の学級や学年で閉鎖を行いました。その波もようやく収まり、今月に入ってから、通常の学校生活を送ることができるようになりました。

保護者の皆さまにおかれましては、学級・学年閉鎖の決定が前日の夕方以降になってしまったことありましたが、ご対応いただきありがとうございます。ご迷惑をおかけしました。

さて、年が明けたら3学期。最後の学期は、今年度になって自分ができるようになったことはどんなことか、どんな力が身についたのかをふり返り、次の学年を見据え、これからどんな努力をしていったらよいのか、どんな力をつけていったらよいのかを考える大切な学期です。子どもたちとともに、締めくくりの大切さを意識する3学期にしていきたいと思います。

保護者の皆さま、地域の皆さま、改めてではありますが、今学期も本校の教育活動にご理解ご協力、そしてご支援をいただき、ありがとうございました。

～「創立 150 周年」に迫る学習～

子どもたちは今学期、『学校や町の「むかし(歴史)」から学び、「いま(現在)」の自分を見つめ、「これから(未来)」の学校・町・自分に思いを馳せる。』のテーマのもと、「創立 150 周年」に迫る学習に取り組みました。今回の学校だよりでは、すでに学習を終えた学年について紹介します。

○1年生 「二宮小学校大好き ～150歳の誕生日をお祝いしよう～」

二宮小学校の昔の名前(「吾妻小学校」という時代があった)や出来事(二宮金次郎像の歴史)についてクイズを通して学んだ後、11月20日の二宮小学校150回目の誕生日に向けて、お



祝いのメッセージを書きました。子どもたちは、「150年」という時間を想像してもどれくらいの長さなのか、なかなか実感できないようでしたが、自分たちが通っている学校のことを思い、どのようなメッセージを贈ったら二宮小学校が喜ぶのかを一生懸命に考えました。数々のかわいらしいメッセージが寄せられました。その一部を紹介します。

- ☆150 さいまでながいきしてくれてありがとう。
- ☆150 ねんもながいきしてすごいね。ありがとう。
- ☆にのみやしょうがっこうにきて、たのしくえがおになりました。
- ☆にのみやしょうがっこうをはなれてもわすれないよ。
- ☆なんさいになってもわすれないよ。
- ☆いつもまもってくれてありがとう。



1年生のメッセージツリー

○4年生 「二宮小学校 150 周年 学校もりあげマスコットを作ろう」

学校生活の中で、「いてくれたらうれしな」「いてくれたら助かるな」「いてくれたら楽しくなるだろうな」そんなマスコットを考えました。教室、音楽室、図書室、理科室、校庭など、ここにこんなマスコットがいてくれたら・・・、わくわくしながら想像をふくらませました。普段生活している場所でも、そこに何かがあるのか、それらはどんなことに使われているのかなど、細かいところまでは意外と知らないものです。改めて校内をじっくり見ることで、その場所の新たな面を発見したり、自分とその場所との新たな関係に気づいたりすることがあります。4年生は、「いま(現在)」の二宮小学校と自分との関係を見つめ、わくわくしながら思いをふくらませたことでしょう。

～こんなマスコットがいてくれたらいいな～

- ☆教室 わからないときに教えに来てくれる教科書を開いてくれる
- ☆図書室 いっしょに本を探してくれるおすすめの本を教えてくれる
- ☆音楽室 いっしょに楽器を演奏してくれる
- ☆理科室 たいへんな実験を助けてくれる
- ☆校庭 雨がふったら屋根をつけてくれる



〇5年生 「国語「たすねびと」の時代背景をくわしく知ろう」

国語で学んだ物語文「たすねびと」の時代背景をよりくわしく知るために、自分たちの身近なところで起きた戦争に関する出来事について学びました。二宮町については、小説「ガラスのうさぎ」の中でもえがかれている機銃掃射の痕が駅のホームの梁に残っていること、また吾妻山には洞くつ陣地の跡があること、そして二宮小学校については、当時の「二宮町国民学校」の校舎のつくりや教科書の内容、子どもたちの暮らし、また、終戦後には、教科書に書かれている文章や絵の一部を墨で黒くぬったことなどについて学習しました。



- ☆戦争中はみんなが危険ととなり合わせで、安全を作ろうとしてもなかなかできないことがわかった。
- ☆二宮町も戦争の苦しみを知っているんだと思った。
- ☆二宮駅も機銃掃射で攻めきされていたから、戦争はすぐそこまで来ていた。
- ☆（機銃掃射の）あとを残しておくことで、戦争を体験していない人も昔の現実を知ることができる。
- ☆戦争の時は勤労ほうしとって小学生でも働くことがあったのだと初めて知った。

～創立 150 周年に寄せて～

●11月の朝会にて

11月28日の朝会で「二宮小学校 150年の歩み」について子どもたちに話をしました。二宮小学校の150年の歴史をふり返る内容です。できれば、創立150周年を迎える11月20日の開校記念日に、子どもたちの顔を見ながら話をしたかったのですが、感染症拡大防止のため、1週間遅らせ、オンラインにて行いました。そのときの内容を簡単にご紹介します。

『1873年、今から150年前、知足寺の本堂を仮校舎とし、「思文館分校」という名前で二宮小学校は誕生しました。その後、1878年に今の場所に学校が移ってきました。したがって、145年もの長い間、ずっと今の場所に二宮小学校は存在していることになります。』

1895年、この年は、二宮小学校にとって大きな出来事がたくさんありました。まず、学校の名前が「尋常吾妻小学校」になったこと、次に、初代の校長先生が着任されたこと、3つめは、開校記念日が11月20日に定められたこと、4つめは、校庭にくすのきの苗が植えられたことです。



1914年、校庭にいちょうの木が6本並んで植えられました。今は、そのうちの1本だけが校庭の真ん中に残っています。



1947年、学校の名前が現在の「二宮町立二宮小学校」になりました。その後、1951年にみなさんが大切に歌っている校歌が作られました。

1970年、今の校舎を建てる工事が始まりました。その3年後の1973年、学校ができてから100周年を迎えました。

そして、今年、二宮小学校は創立150周年を迎えたのです。』

長い長い150年の歴史を語るのとは簡単なことではありませんが、現在の二宮小学校につながる大切な出来事を中心に、そして、二宮小学校の児童として誇りをもってほしいという願いのもと話をしました。

